

日本語と日本文学

第 65 号

パネルディスカッション

「語り」の視点—主観と客観の在り方をめぐって

ねらいと概要 …………… 沼田 善子 (3)

空海書簡の表現—独創と汎用— …………… 西 一夫 (5)

教育研究における「語り」の主観・客観性 …………… 宮澤 優弥 (左 15)

語りづらい体験はどう語られるか

——終助詞の機能からみる体験談話／体験談話の性質からみる終助詞——
…………… 白川 稜 (左 21)

研究論文

平安和歌における立春詠の展開 … 隋 源遠・茂野 智大 (31)

後撰集「題しらず」「よみ人しらず」をめぐって… 福田 孝 (45)

『伊勢物語集註』における『毛詩』の引用 …… 安 倩 (63)

正岡子規の俳句における「ほととぎす」のイメージについて… 王 笑宇 (81)

平安朝漢詩文における太公望像 …………… 出口 誠 (93)

持続可能性日本語教育における教師の自己研修・教師養成研究

…………… 岡崎 敏雄 (左 107)

{-e-} 型自動詞と、対応する {-u} 型他動詞の派生関係について

——『日本国語大辞典精選版』における初出年代から比較した有対自動詞の性質——
…………… 関口 雄基 (左 121)

令和 2 年 2 月

筑波大学日本語日本文学会

投稿規定

- 一、投稿資格を有するものは、本学会の会員とします。
- 一、投稿論文は四百字詰原稿用紙四十枚（二万六千字）程度。ワープロ原稿の場合はハードコピー二部に電子媒体ファイルを添付してください（原稿と電子媒体は原則としてお返しいたしません）。
- 一、投稿は、毎年度二月末日までに、編集委員会あてに送付してください。
- 一、投稿論文の採否は、編集委員会で指名する複数の査読者による審査をへて、編集委員会で決定して投稿者に報告します。
- 一、本誌の論文は、筑波大学附属図書館のつくばリポジトリに登録され、全文データベースとして蓄積・利用されます。

一、原稿送り先

〒305-8571茨城県つくば市天王台一丁目一一一

筑波大学人文社会科学系文芸・言語専攻

筑波大学日本語日本文学会

『日本語と日本文学』編集委員会

（編集委員）石塚修（委員長）・大倉浩・

甲斐雄一郎・清登典子・沼田善子

投稿案内

本誌では会員の皆様の御投稿をお待ちしております。

学会機関誌はいうまでもなく、学外のOB、学内の教員および学生の三者が一体となつて、当該学問に貢献しうる学問的成果を公表してゆく媒体として存在するものであります。従いまして、本誌の一層の充実とは、この三者の構成員の熱意に負うところが多大であります。本誌の価値を高め発展させてゆくためには、これら構成員から質の高い論文の投稿を仰がねばなりません。構成員、とりわけ学外のOBの皆様の積極的な御協力を願う次第です。

投稿は「投稿規定」により、また投稿原稿は編集委員会の審査を経た上で掲載させていただきます。なお、抜刷の作製料については投稿者の御負担とさせていただきます。御了承下さい。

編集後記

第六十五号をお届けします。

今回も原稿が順調に調べられずに予定どおりの刊行にいたりませんでしたが、年一回の刊行となり、会員の皆様からは積極的な投

稿をいただけるようになり感謝申し上げます。

昨年は平成から『万葉集』にちなんだ令和となり、筑波大も来年度より大学院の学位プログラム化され博士課程も一貫性でなくなるなど大きな変革期を迎えました。そうしたなかでの本誌の永続を心より願うばかりです。

（編集委員長 石塚）

芳賀紀雄名誉教授におかれましては、令和元年五月二十五日ご逝去なさいました。七十三歳でした。謹んでお悔やみ申し上げます。

令和二年二月二十九日印刷
令和二年二月二十九日発行

〒305-8571茨城県つくば市天王台一丁目一一一

筑波大学文芸・言語専攻

編集・発行 筑波大学日本語日本文学会

代表者 矢 澤 真人

印刷所 第一印刷株式会社

☎〇二八二（三二）一五五一